

調査結果⑦

サーキュラーエコノミーを学ぶツアー
in アムステルダム

サーキュラーエコノミーを学ぶツアー

- ※ 現地コーディネーター主催のツアーに参加
- ※ 各訪問先の概要、写真を掲載

CIRCL

オランダのメガバンクABN AMROが建てたサーキュラーエコノミー複合施設。CIRCLは解体時の環境負荷をできるだけ少なくすることを前提に建設されており、例えば、将来的に新たな用途に使用できるように柱等に使用された木材は必要以上に太く作られている。また、建物の建設に化学接着剤は使用せず、取外し可能な金具のみを使用した。2基のエレベーターの使用料金は使用回数に応じて、CIRCLがメーカーに支払う方法を採用し、施設の利用者が心理的に使用回数を減らす行動を取るようなデザインになっている。訪問時には解体することが決まっていた。



Fashion for Good

世界初のサステナブルなファッションミュージアムとして、サステナブル・イノベーションに取り組む人々とファッションブランド、小売業者、製造業者、資金提供者を結び付ける。2024年6月5日に閉館したため、訪問時は展示品がほとんどなかった。

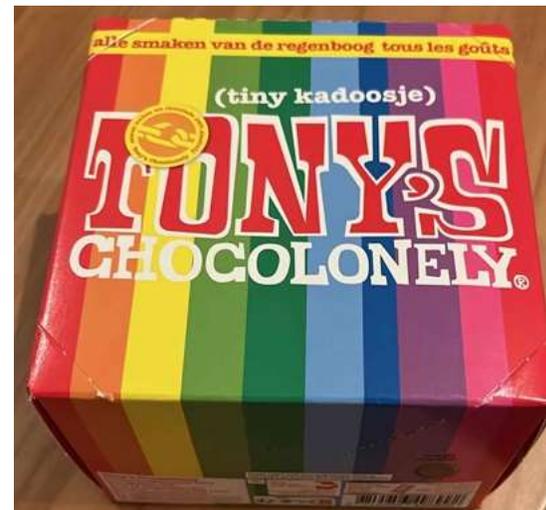
建物は地下1階から地上2階までの構成となっており、地下1階は19世紀～21世紀初頭にかけての低賃金労働による大量生産時代を学ぶ「過去」のフロア、1階は世界各国のファッションブランドが既に商品化している最先端のサステナブルな取り組みを学ぶ「現在」のフロア、2階は各国で実証実験や研究が進められ今後ファッション業界へ広がると見込まれる製品や技術を学ぶ「未来」のフロアとなっていた。



Tony's Chololonly

オランダ発の100%強制労働に頼らないチョコレートブランド。チョコレートのサプライチェーンでは、カカオを生産する何百万人もの農家から、何十億人もの消費者まで続いているが、その中間部分ではカカオの買取価格をできるだけ低く抑えるためにカカオ農場で違法な児童労働や強制労働が行われる場合がある。Tony's Chololonlyでは以下の5つの調達原則を適用している。

- 追跡可能なカカオ豆の購入（限られたパートナー協同組合から直接カカオ豆を購入）
- 買取価格を高く設定（カカオ農家の割増金を上乘せ）
- 農家の地位向上（農場の運営方法、農家同士の信頼関係構築を支援）
- 長期的な関係構築（一つの農家と5年以上提携）
- 高い品質と生産性（カカオ農家が生産資源へ投資できるように支援）



De Hallen

かつて鉄道の整備場であった跡地を利用した、ホテル、映画館、フードコート、図書館、セレクトショップなどが集まる複合施設。施設内は線路や鉄骨など整備場の雰囲気が残る空間となっている。自転車ショップの「Recycle」では、自転車整備士になるための訓練を受けるワークショップを実施し、整備した自転車の販売を行っている。



Little Plant Pantry

アムステルダムで最初のゼロウェイストショップとして、プラスチック包装材を使用しない又は最小限にした商品を提供している。油、スパイス、発酵食品、洗剤等の商品は、大きな容器に包装されずに展示されており、消費者は量り売りで購入することができる。



NDSM

1984年に倒産したアムステルダム造船会社の名前を引き継ぎ、造船所の跡地をリノベーションしたイベントスペース。旧造船所の倉庫やクレーンなどをそのまま活かし、ワークスペースやアート作品の展示を行う等、アーティストや起業家、若者、観光客が集まる場所に生まれ変わっている。



↑ クレーンをリノベーションした「Faralda Crane Hotel」

SchoonSchip

アムステルダム北部に位置するサステナブルな水上住宅街。46世帯、30住宅で構成される住宅街では、住民100人強、ソーラーパネル516枚、ヒートポンプ30基、サーマルパネル60枚が設置され、ガスシステムに接続されていない環境でも、不自由なく生活できるように工夫がされている(以下、特徴的な取組み)。

- 暖房や給湯のエネルギーは太陽熱温水器とヒートポンプを使用している。太陽光発電パネルで自家発電を行い、各家に一時的な余剰分を蓄えるバッテリーを設置している。
- 全ての家がスマートグリッドで接続されており、家同士で電力の交換が可能。
- 全ての家は屋根の1/3が緑で覆われている。
- 電気自動車、カーゴバイク、電気自転車を共有している。



De Ceuvel

アムステルダム北部の旧造船所をテクノロジー、持続可能性、芸術の最先端を行く文化都市の中心地とするべく、2012年に建築家グループがアムステルダム市から10年間のリースで確保した土地。旧造船所である特徴を生かして、老朽化した船をアップサイクルし、2014年にオフィスパークとしてオープンした。

De Ceuvelには、敷地内で発生した廃棄物を外に出さないというコンセプトがあり、下水システムの代わりに堆肥トイレが設置されている（施設内のカフェには水洗トイレが設置）。



MUD JEANS

デニム製品を製造する過程での水の節約、温室効果ガスの発生抑制を目的に、古いMUD Jeansを引き取り、新製品の原料に再利用している世界初のサーキュラーデニムブランド。MUD Jeansを1足製造するには、400Lの水と3.4kgのCO₂が発生するが、ライフサイクル分析によると、リサイクルコットン、リサイクル水、節水、省エネ生産技術（染色技術等）、再生可能エネルギーの利用を行った場合は、水を72%、CO₂を41%削減できることが分かっている。MUD Jeansの引取り制度では、事業が続く限り、いつでも購入したMUD Jeansを返却し、再生デニム生地为原料に利用できる。新しい商品はリサイクルコットンを最大40%含んでいる（接着剤の使用や耐久性の確保のためにリサイクルコットン100%の商品は作れない）。

